

ひろきくん
弥勒寺官衙遺跡群
イメージキャラクター

関市遺跡探訪

市内で見学できる遺跡のうち、主な8遺跡を紹介します！！

Special Thanks to SEALAND-SKY

関市文化財保護センター

弥勒寺官衙遺跡群 (池尻)

国指定史跡・弥勒寺官衙遺跡群は、関市池尻の長良川河畔を中心に広がる古代寺院や役所（官衙）などの遺跡群です。1959（昭和34）年、弥勒寺跡は、美濃の伝統的な古代豪族ムゲツ氏の氏寺として、国史跡の指定を受け、また、丸山古窯跡（美濃市大矢田）は「弥勒寺」に瓦を供給した窯跡の一つであることから、合わせて指定を受けています。その後の調査で弥勒寺官衙遺跡は2007（平成19）年、池尻大塚古墳は2016（平成28）年に追加指定を受けています。

弥勒寺跡は、7世紀末頃に建てられた古代寺院です。東に塔、西に金堂が配置された法起寺式の伽藍配置で、蓮華の模様がついた軒丸瓦や布目のついた平瓦、綠釉の陶器、螺旋（仏像の頭髪部分）、「大寺」と墨で書かれた土器などが出土しています。

弥勒寺官衙遺跡は、古代の郡役所を構成する施設がまとまって把握できる重要な遺跡です。中心施設の郡庁院は、東西50m、南北60mの堀に囲まれた範囲に正殿、脇殿と呼ばれる建物が建っていました。背後には南北40m、東西130mの構に囲まれた正倉院があり、米を納めた倉庫が建ち並んでいました。

全景（北から）

弥勒寺跡 塔心礎

東海環状自動車道
長良川
池尻大塚古墳
弥勒寺官衙遺跡
関市円空館
鮎之瀬橋
小瀬駅
関駅
岐阜市内郵便局
小瀬北
156号
小瀬6番町
東海北陸自動車道
418号
千疋大橋東
小金井郵便局
岐阜県博物館
岐阜市文化財保護センター

池尻大塚古墳 (池尻)

池尻大塚古墳は、池尻山の支尾根の裾に造られた古墳で、古代の武義郡を治めたムゲツ氏の墓と考えられています。2016（平成28）年、国指定史跡・弥勒寺官衙遺跡群の追加指定を受けました。

墳丘の盛土が失われ、石室の石材が露出しているところから「美濃の石舞台古墳」とも呼ばれます。

2008（平成20）年に第1次の範囲確認調査、2011（平成23）年に第2次範囲確認調査と天井石を取り外して石室内部の発掘調査が行われました。これによって、規模は一辺が約23~25mで、2段に築成されていた可能性があり、前面をやや西に傾けた不整な方形をしていることがわかりました。地形に制約しながらも眼下の長良川を意識して造られたと思われます。

石室の調査は玄室の床面積の30%程度に限られましたが、巨石を用いた立派なもので、床面は平たい円礫を敷き詰め、きれいに整えられていました。石室内からは土師器の小壺と須恵器（环蓋）の他、鉄地金銅張（鉄の地金に銅箔を張り、金メッキを施した）飾金具が出土しました。馬具（貴人が乗る馬を飾る装具）が胡錠（矢を入れる筒状の武具）の飾りの一部と考えられます。

石室（南東から）

鉄地金銅張飾金具

玄室 完掘状況

石室内西側壁と床面

塚原遺跡・塚原古墳群 (千疋)

塚原遺跡・塚原古墳群は、関市千疋にあります。長良川右岸の南向きの緩斜面に位置します。1987（昭和62）年、発掘調査が行われ、縄文時代早期・中期・古墳時代後期の3つの時期の遺跡が見つかりました。1998年から2001年度に遺跡整備を行い、塚原遺跡公園としてオープンしました。

縄文早期では、石圓墳・地床炉・炉穴など焼土や焼けた礫が残る屋外炉が多数確認されています。早期の縄文土器は、底部が尖るものが多く、石組みや穴に据えつけて煮炊きしたと考えられます。

縄文中期には、堅穴建物17棟、掘立柱建物19軒が見つかりました。これらの建物群は、時期差があるようですが、中央の円形の広場を囲むように掘立柱建物が配置され、その外側に堅穴建物が半円帶状に位置しています。中期の縄文土器は浅鉢や壺形土器などの器種も見られ、形状や文様など多様化しています。また、石器も多数出土し、特に石錘が多く、長良川での漁が盛んであったと推測されます。

古墳時代後期では、16基の古墳が発掘されました。大半が横穴式石室を持つ円墳で、6世紀後半から7世紀末まで約100年間にわたり順々に造られたと考えられています。石室内からは、壺、蓋、高壺、提瓶、罐などの須恵器の他、土師器、刀子、鉄鏃が出土しました。

418号
池尻
塚原遺跡公園
長良川
千疋大橋東
小金井郵便局
岐阜県博物館
岐阜市文化財保護センター

全景（南東から）

復元建物

小瀬方墳 (山王通)

小瀬方墳は山王通西に所在し、東海北陸自動車道と県道79号が交差する地点の北東に位置します。

四角形をした方墳で、3つの段があります。規模は東西23m、南北22.6~24.5m、高さ3.3~3.7mです。

発掘調査が行われていないため、築造時期や構造は不明ですが、美濃地方各地の有力豪族の墓に大形の方墳が採用される7世紀前半に造られたと考える意見があります。

市内には小瀬方墳の他に池尻大塚古墳、御前塚古墳、八王子古墳などの方墳が、ムゲツ氏の氏寺である弥勒寺跡を中心に密集しています。これらの方墳にはムゲツ氏に関連した人物が葬られている可能性があります。

全景（南から）

東海北陸自動車道
小瀬方墳
県道 79 号
栄町 4
N

片山西塚古墳 (小瀬)

片山西塚古墳は関市小瀬字片山に所在する関市内唯一の前方後円墳です。長良川左岸の沖積地を見下ろす丘陵裾部に位置し、片山西塚古墳と共に片山古墳群と呼んでいます。長良川対岸の池尻地域には、国指定史跡・弥勒寺官衙遺跡群が所在しています。

2003（平成15）年に範囲確認調査を行い、この成果により、2018（平成30）年2月1日、関市指定文化財に登録されました。墳丘の規模は、22.3mです。後円部は径14.9m、高さ2.1m、前方部は長さ10.1m、高さ1.7mを測り、前端の幅は約14.5mです。埋葬施設は後円部にあり、3基の墓壙を発見しました。墓壙1は、幅1.15m、長さ約3.2mで、最も規模が大きく、頭位は北東方向と推定されます。墓壙内の上方で礫を検出しましたが、いわゆる堅穴式石槨の蓋石ではなく、埋葬方法は木棺直葬と考えられます。他の2基は規模が小さく、墓壙1の被葬者に従属する人物の墓壙であると思われます。墳丘上には葺石が確認できます。墳丘の南側を中心として壙がありますが、全周はしません。前方部の右隅角は丸く収まった形で、左隅角は壙が巡らないことから緩い傾斜を持たせた「墓道」であることが明らかになりました。

築造時期は古墳時代中期の可能性があり、被葬者は古墳時代に活躍したムゲツ氏の一族で、古代武義郡全域を掌握した首長層と推測できます。

鮎之瀬橋
JAめぐみの
おぜ診療所
片山西塚
156号
小瀬10番町
N

全景（南から）

復元図

落洞1号古墳 (武芸川町小知野)

落洞1号古墳は武芸川町小知野にあります。権現山の山麓で、西洞谷川左岸に位置しています。

2021（令和3）年の内容確認調査の結果、墳丘は直径約16m、高さ約4mの円墳であることが確認できました。全長9.1mの横穴式石室を持つ後期古墳で、武芸川地域では最大規模です。

山を削って基壇状の盛り土を行い、その上に古墳を構築していたと推測できます。また、古墳の西半分のみ葺石を行なうなど墳丘の西側を見せる

ことを意識して古墳の築造を行っていたと考えられます。

残念ながら、石室は盜掘を受けているため、副葬品はありませんが、武芸川地域を治めた豪族の墓であるといえます。

全景（南から）

落洞1号古墳
418号
むげわ保育園
岩井戸岩陰遺跡
武芸川ふるさと館
武芸川中学校
武芸川事務所
N

御輿山古墳群 (武芸川町跡部)

御輿山古墳群は武芸川町跡部に所在します。武儀川右岸にある標高146m程の御輿山の東から南向き斜面にあり、合計10基の古墳が見つかります。跡部地区にはたくさんの古墳がありますが、御輿山には最も多くの古墳が集中しており、跡部地区の中心であった可能性があります。跡部という地名は約1,100年前の「和名類聚抄」という書物にみえる由緒あるものです。

地元では、第25代武烈天皇の御子が都から逃げて隠れ住んだという伝承があり、御輿山の山中にある神社は、王子を祀るために平安時代に建立されたと伝わります。南側の山裾にある大跡部王子陵は御輿山古墳群の中で最も規模が大きく、前方後円墳であった可能性が指摘されています。

大跡部王子陵（東から）

御輿山古墳群
418号
大跡部王子陵
大跡部神社
N

古町遺跡
せきてらす
N

小銀冶炉跡
N

小銀冶炉跡
N

